

発 言 通 告 書

発言者氏名	山本けんじゅ
発言の会議	平成27年 6月 9日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	<u>一 括</u> 、一問一答
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 横須賀市のスポーツ振興について

- (1) スポーツは市民の皆様の誰もが、身近に健康を求めて体力の維持や向上を図ることができるとともに、日常生活での豊かさをもたらす効果があります。また、健全な青少年の育成における教育的効果や、高齢化社会における医療費の削減、パラリンピックなどから感じられる障がい者の尊厳につながると考えます。スポーツ庁の設置でインフラ整備や選手の育成強化がますます拡大し、新たにスポーツ立国として日本人が世界を意識する機会になると考えます。さらに、このスポーツ分野は伸び代のある産業とも言われ、フィットネス産業やレジャー産業、各種スクール事業などが大きく市場の拡大をすることでしょう。この東京五輪を控え、国民のスポーツに対する意識も今後はさらに高まることと思います。一過性の盛り上がりにはすることなく、さらに先を見据えた取り組み内容にすべく横須賀市としてもその一役を担っていただきたいと思えます。

スポーツ庁の設置による国のスポーツ振興と、日本全体の機運の高まりを踏まえ、今後の横須賀市スポーツ振興推進に向けた市長の意気込みをお聞かせください。

2 子どもの体力向上について

- (1) 子どもの体力低下は、ライフスタイルの変化からくるもので、ゲームや携帯電話の普及による影響があると考えます。幼児期の段階で外遊びの減少から運動量が落ち、体力の低下や運動離れにつながることから、国も取り組むべき課題施策に「幼児期からの子どもの体力向上方策の推進」を掲げております。平成26年度第2回横須賀市スポーツ推進審議会の資料によると、平成24年度・25年度の体力運動能力の実施データでは、本市の小学校5年生の男女9種目、中学校2年生の男女10種目ともに、全国平均を大きく下回る結果になっています。

学校での体力テストの経過をさらに詳しく追え、就学前の体力状況の推測ができることから、現在行っている小学校3年生から中学校3年生までの体力・運動能力・運動習慣等調査の集計と分析を、今後は小学校1年生から行っていただきたいと思っております。これによって学校教育が担っている子どもたちの体力向上における取り組みの方向性がさらに明確となり、家庭や地域との連携の方向性も明確になると思いますが、御所見を伺います。

3 横須賀市ならではのスポーツ国際交流について

- (1) 米海軍基地を抱える本市としても英語教育が盛んに行われるようになってきました。本市ならではの国際コミュニケーション手段として、米海軍関係者とのスポーツ交流というものも必要ではないでしょうか。本市の強みとして、スポーツ交流が子どもの英語力向上のきっかけとなることもあり、さらには海外で行われる国際大会に出場するまでもなく、国際交流ができるという環境利点があります。

本市の特徴を生かし、各競技団体における選抜チームや地域のスポーツ団体等が、基地の内外で日米交流をできるような取り組みについていかがお考えでしょうか。

4 ジュニア選手の育成・強化について

- (1) 横浜DeNAベイスターズ、横浜F・マリノス、東芝ブレイ

ブサンダースとトップレベルのチームが横須賀でも活動されております。よこすかドリームスポーツプロジェクト推進事業では、このプロスポーツチームの選手・コーチが地域貢献活動として、学校教育現場で直接子どもたちに指導を行っております。

よこすかドリームスポーツプロジェクト推進事業では、子どもたちのためにも、プロチーム側へ引き続き積極的なアプローチをお願いしたく思います。さらにはこのよこすかドリームスポーツプロジェクト推進事業のような取り組みを、他競技にわたり幅広く行っていただくことで、学校教育現場において他の競技でも努力している子どもたちや、運動が苦手な子どもたちが運動への興味を持つきっかけとして、一流プレーヤーと触れ合う機会をつくることについてどのようにお考えでしょうか。

- (2) スポーツリーダーバンクについて伺います。横須賀市教育振興基本計画の中で位置づけられた、全国大会や日本代表として活躍する競技者の育成と支援、東京五輪へ向けたジュニア選手の育成を含んだ強化事業への支援があります。競技力の向上は指導力が重要であります。学校の部活動においては教員の負担が大きいのが現状です。

神奈川県スポーツリーダーバンクの積極的な利用とともに、本市としても高い専門知識を備えた指導者や、スポーツ医師、心理・栄養・トレーナースタッフ、現役大学生アスリートなどを登録する、仮称「よこすかスポーツサポーターズ」といった制度の導入を進めるべきだと考えますが御所見を伺います。

5 横須賀総合高校の運動部活動の強化、スポーツビジネス学科新設の必要性について

- (1) この年代の子どもは全日本代表にもなれる世代でもあり、全国、世界でも戦うこともできる、まさに横須賀の顔として活躍が期待される選手になる立場でもあります。本市教育委員会は横須賀総合高校に対し、強化育成事業として技術・体力の向上に力を入れた強化を行っております。おかげで陸上競技とアーチェリー一部は毎年全国・関東大会への出場を果たしております。その他の競技からもぜひ、全国で活躍するような生徒が出てくるような支援を引き続きお願いしたいと思います。「子どもが

「主役になれるまち」を掲げていても、質のよい環境整備を進めていかなければ、成長期で最も技術的に伸びる時期を逃してしまいます。よって、さらに指導力・育成システム・練習環境の3つの要素の質を高め、5年、10年といった計画・段階的な戦略アプローチを進めていくことが極めて重要だと考えます。

横須賀総合高校の運動部強化については今後どのような方向性で進めていくのか御所見を伺います。

- (2) 今後、日本ではスポーツマネジメントや健康分野におけるビジネスがますます拡大していくことが予想されます。そこから地域における生涯スポーツ振興から、世界で通用するようなグローバルな視野と能力を持った人材が求められることでしょう。

横須賀総合高校においても生涯スポーツ振興の担い手として、健康分野とスポーツを支えるマネジメントに関して専門性があり、就業に向けた技術・資格を有する人材育成を目指すためにも、今後スポーツビジネス学科の設置が必要と考えますが、御所見を伺います。